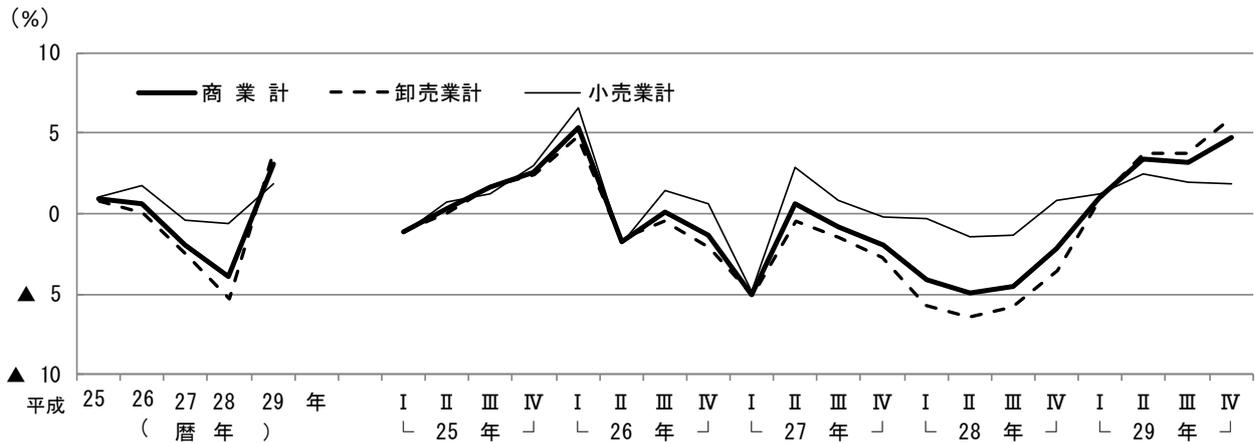


# 概 況

## I. 商業販売額の動向

平成29年の商業販売額は、前年比3.1%と3年ぶりの増加となった(第1図)。卸売業販売額は、同3.6%と3年ぶりの増加、小売業販売額は、同1.9%と3年ぶりの増加となった。

第1図 商業販売額の推移(前年比・前年同期比)

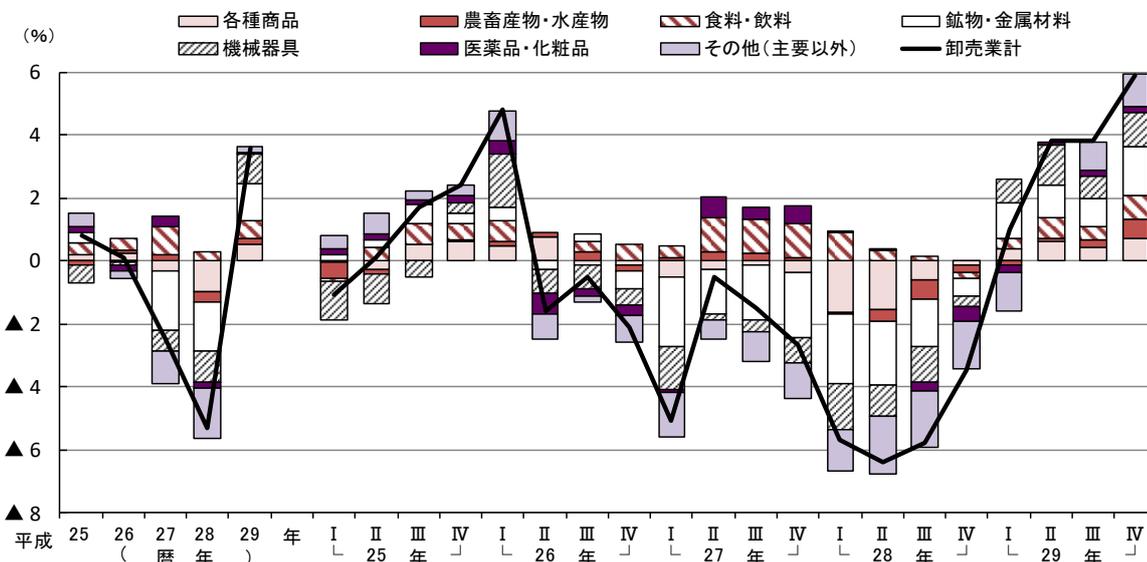


## II. 卸売業販売額の動向

平成29年の卸売業販売額は、前年比3.6%と3年ぶりの増加となった(第2図)。

これは、鉱物・金属材料卸売業が原油、石炭、液化天然ガスの価格上昇による輸入増ならびに、鉄鋼製品の国内向けの増加及び輸出入増などにより増加、機械器具卸売業が半導体等電子部品の輸出入増、電算機類の輸入増及び家電製品の国内向け増ならびに、原動機、半導体製造装置の輸出増などにより増加、食料・飲料卸売が、外食産業向けの増加や食料品の輸出入増などにより増加となったことなどによる。

第2図 主要卸売業業種別寄与度の推移(前年比・前年同期比)



## 1. 主要業種における年間販売額の動向

- ① 各種商品卸売業（総合商社など）は、原油及び液化天然ガスの輸入増や有機化合物の輸出入増などにより、前年比 4.6%と 3年ぶりの増加となった。
- ② 農畜産物・水産物卸売業は、水産物や肉類の輸入増などにより、前年比 2.8%と 2年ぶりの増加となった。
- ③ 食料・飲料卸売業は、外食産業向けの増加や食料品の輸出入の増加などにより、前年比 3.5%と 8年連続の増加となった。
- ④ 鉱物・金属材料卸売業は、原油、石炭、液化天然ガスの価格上昇による輸入増ならびに、鉄鋼製品の国内向けの増加及び輸出入増などにより、前年比 8.9%と 4年ぶりの増加となった。
- ⑤ 機械器具卸売業は、電気機械器具が半導体等電子部品の輸出入増、電算機類の輸入増及び家電製品の国内向け増などにより増加、産業機械器具が原動機の輸出入増及び半導体製造装置の輸出増などにより増加、自動車が増加及び自動車部分品の輸出入増などにより増加したことにより、前年比 4.5%と 7年ぶりの増加となった。

## 2. 大規模卸売店における年間販売額の動向

大規模卸売店は、前年比 6.1%と 3年ぶりの増加となった。

これは、鋼材の国内向け及び輸出の増加、石油製品の国内向け及び輸出の増加、原油及び液化天然ガスの輸入が増加となったことなどによる。

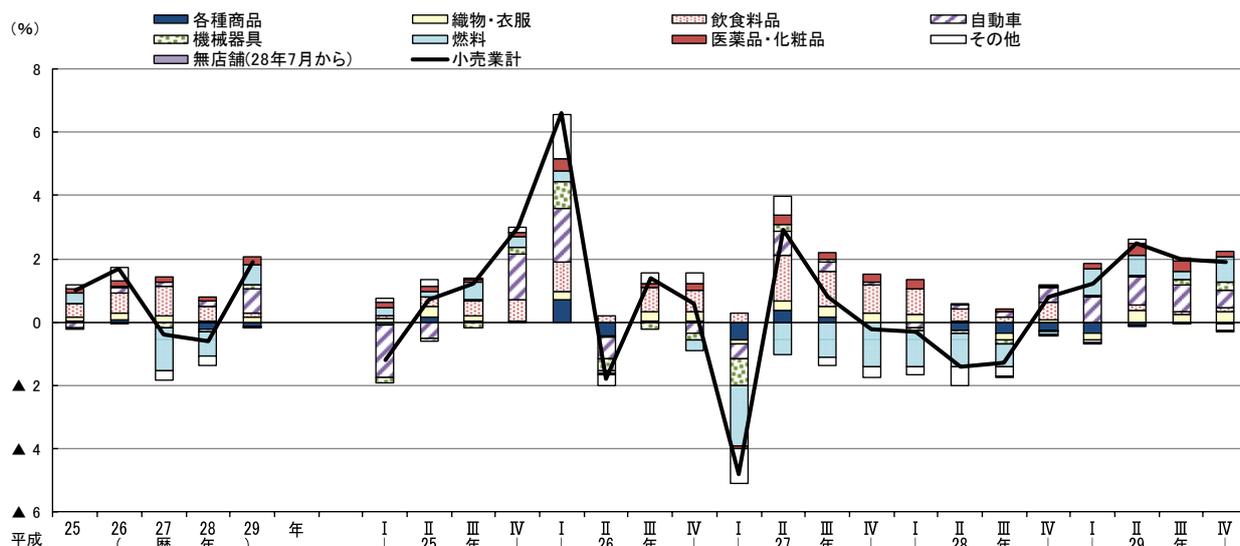
商品別にみると、農畜産物・水産物、家庭用電気機械器具、その他の輸送用機械器具などが減少となったものの、鉄鋼をはじめ、石油・石炭、化学製品、その他の機械器具、非鉄金属などが増加となった。

## Ⅲ. 小売業販売額の動向

平成 29 年の小売業販売額は、前年比 1.9%と 3年ぶりの増加となった（第 3 図）。

これは、自動車小売業が、新型車効果により普通車などが好調だったことなどにより増加、燃料小売業が、ガソリンなどの石油製品価格が上昇したことなどにより増加、医薬品・化粧品小売業が、化粧品が好調だったことなどにより増加、織物・衣服・身の回り品小売業が、季節商材に動きがみられたことなどにより増加、機械器具小売業が、生活家電が好調だったことなどにより増加、飲食料品小売業が、畜産品や総菜に動きがみられたことなどにより増加となったことによる。一方、各種商品小売業（百貨店など）が、天候不順の影響から衣料品などの動きが鈍かったことなどにより減少となった。

### 第3図 小売業業種別寄与度の推移（前年比・前年同期比）



注：27年7月より無店舗小売業を特掲して表章している。

#### 1. 業種別年間販売額の動向

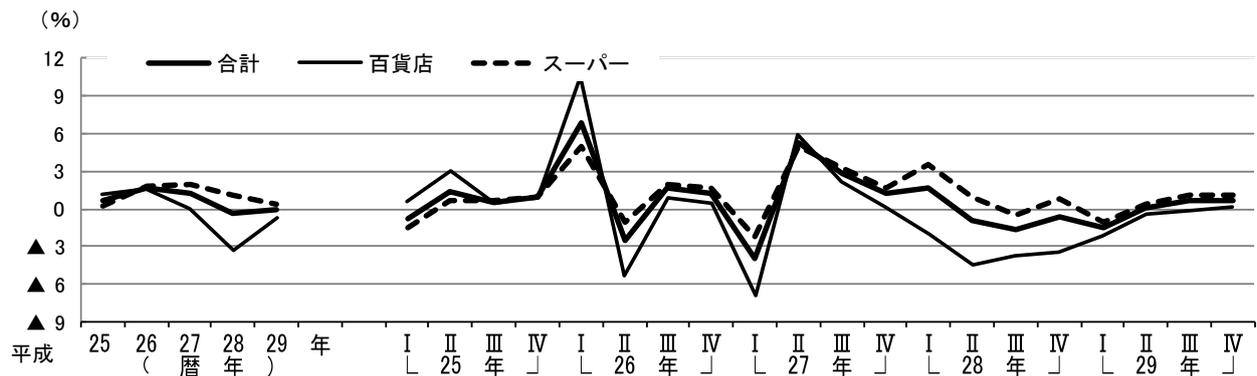
- ① 各種商品小売業（百貨店など）は、化粧品や高額商品が好調だったものの、天候不順や閉店の影響から衣料品などの動きが鈍かったことなどにより、前年比▲1.3%と3年連続の減少となった。
- ② 織物・衣服・身の回り品小売業は、春前半の気温上昇により春物衣料が好調だったことに加え、夏物衣料も好調だったこと、秋後半の気温低下により冬物衣料に動きがみられたことなどにより、前年比 2.3%と8年連続の増加となった。
- ③ 飲食料品小売業は、野菜の相場安の影響はあったものの、畜産品や総菜に動きがみられたことに加え、コンビニエンスストアの好調などにより、前年比 0.3%と11年連続の増加となった。
- ④ 自動車小売業は、新型車効果により普通車及び軽乗用車などが好調だったことに加え、輸入車も好調だったことなどにより前年比 6.4%と4年連続の増加となった。
- ⑤ 機械器具小売業は、エアコン、洗濯機、冷蔵庫などの生活家電が好調だったことなどにより、前年比 2.8%と3年ぶりの増加となった。
- ⑥ 燃料小売業は、ガソリンの販売量は減少したものの、ガソリンなどの石油製品価格の上昇などにより、前年比 8.2%と4年ぶりの増加となった。
- ⑦ 医薬品・化粧品小売業は、化粧品などが好調だったことに加え、ドラッグストアが堅調だったことなどにより、前年比 3.9%と6年連続の増加となった。
- ⑧ その他小売業は、天候不順の影響からインテリア用品などが不調だったことに加え、家庭用品・日用品も動きが鈍かったことなどにより、前年比 ▲0.2%の減少となった。

⑨ 無店舗小売業は、健康食品などが不調だったことなどにより、前年比 ▲0.7%の減少となった。

## 2. 百貨店・スーパーにおける年間販売額の動向

百貨店・スーパーは、前年比0.0%の横ばいとなった(第4図)。  
 なお、既存店ベースでも、同0.0%の横ばいとなった。

第4図 百貨店・スーパー販売額の推移(前年比・前年同期比)



### ① 百貨店

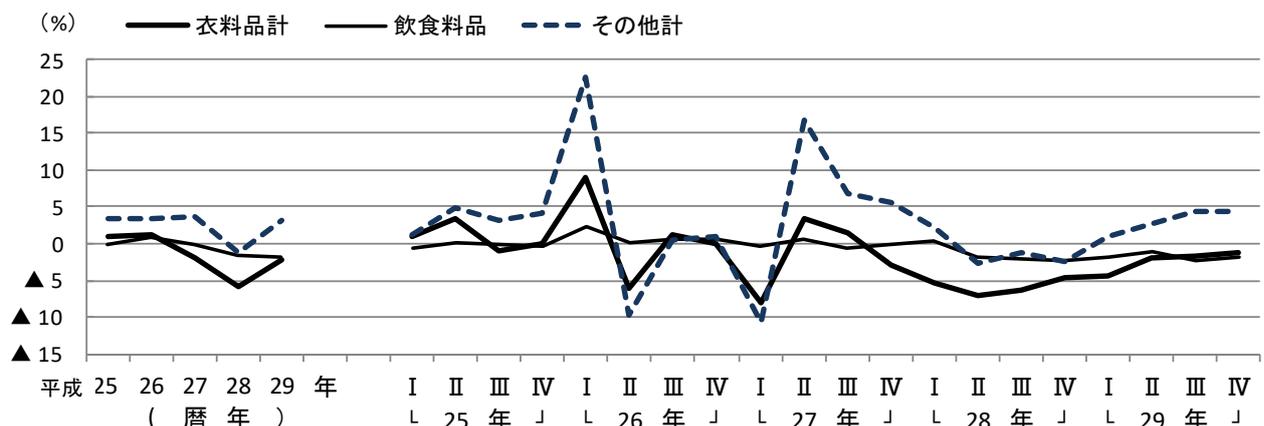
百貨店は、前年比▲0.7%と2年連続の減少となった(第5図)。

これは、化粧品や高額商品が好調だったものの、閉店の影響に加え、消費者マインドの低下や天候不順などにより主力の衣料品を中心に低調だったことなどによる。

商品別にみると、衣料品は、消費者マインドの低下や天候不順、閉店の影響などにより、婦人服など全ての商品で減少となった。飲食料品は、地方物産展などの催事効果がみられたものの、一部店舗の改装による売場面積減少や閉店の影響により減少となった。その他は、化粧品が国内需要、訪日外国人旅行者(インバウンド)需要ともに好調だったことに加え、円安株高を背景とした資産効果から、高級腕時計や宝飾品などの高額商品に動きがみられたことなどにより増加となった。

なお、既存店ベースで見ると、同0.6%と2年ぶりの増加となった。

第5図 百貨店商品別販売額の推移(前年比・前年同期比)



## ② スーパー

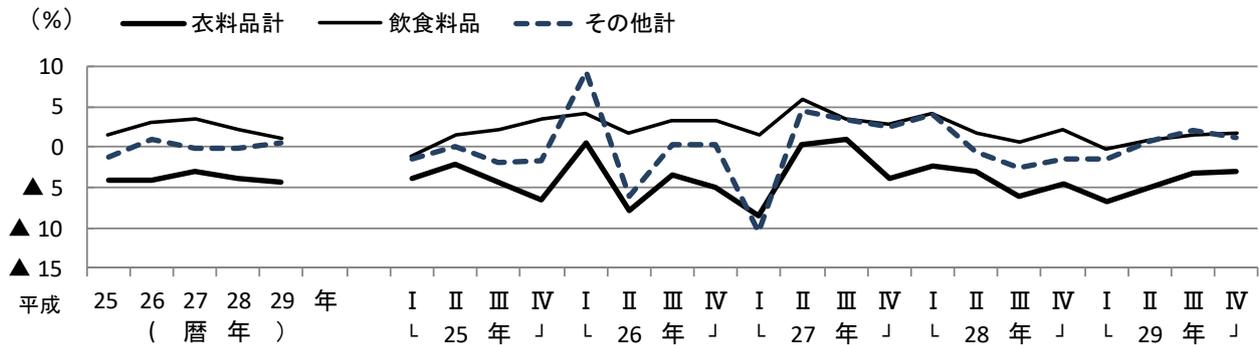
スーパーは、前年比0.4%と6年連続の増加となった(第6図)。

これは、天候不順の影響や消費者の節約志向の高まりなどから、衣料品や家庭用品などが低調だったものの、新店効果に加え、畜産品や総菜を中心に、主力の飲食料品が堅調だったことなどによる。

商品別にみると、衣料品は、天候不順の影響や消費者の節約志向の高まりなどから、婦人服など全ての商品で減少となった。飲食料品は、総菜や畜産品などが堅調だったことに加え、秋以降に野菜の相場高などにより増加となった。その他は、化粧品などに動きがみられたことなどにより増加となった。

なお、既存店ベースでみると、同▲0.2%と4年ぶりの減少となった。

第6図 スーパー商品別販売額の推移(前年比・前年同期比)



## 3. コンビニエンスストアにおける年間販売額の動向

コンビニエンスストアの商品販売額及びサービス売上高の合計は、前年比2.4%と19年連続の増加となった(第7図)。

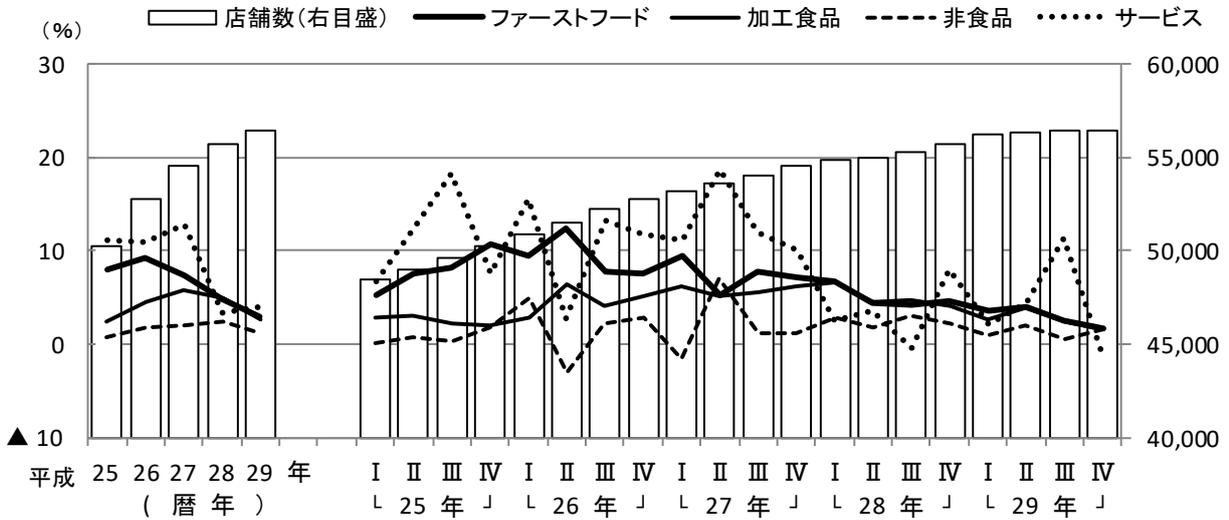
これは、ファーストフード及び日配食品などが好調だったことなどによる。

商品販売額は、同2.3%と19年連続の増加となった。

商品別にみると、ファーストフード及び日配食品は、ファーストフード、調理麺、総菜などが好調だったことにより、同2.9%と8年連続の増加となった。加工食品は、冷凍食品、アイスクリーム、ソフトドリンクなどが好調だったことにより、同2.6%と8年連続の増加となった。非食品は、たばこ関連商品などが好調だったことにより、同1.2%と19年連続の増加となった。

サービス売上高は、各種チケットの取り扱い増やプリペイドカードなどが好調だったことにより、同4.0%と11年連続の増加となった。

第7図 コンビニエンスストアの商品販売額及びサービス売上高と店舗数の推移  
(前年比・前年同期比)



店舗数をみると、12月末で5万6374店、前年末に比べ738店の増加（前年末比1.0%増）となった。

#### 4. 家電大型専門店における年間販売額の動向

家電大型専門店は、前年比3.1%と増加となった（第8図）。

商品別にみると、情報家電は、パソコンやゲーム機の需要好調により同9.3%の増加、カメラ類は同3.9%の増加、通信家電は同2.6%の増加となった。また、生活家電は、エアコンや洗濯機、冷蔵庫などが引き続き堅調だったことから同2.4%と2年連続の増加となった。

第8図 家電大型専門店商品別販売額寄与度の推移（前年比・前年同期比）

